

2017年4月9日

福音書からのメッセージ

百人隊長や一緒にイエスの見張りをしていた人たちは、地震やいろいろの出来事を見て、非常に恐れ、「本当に、この人は神の子だった」と言った。

(マタイによる福音書 27章 54節)

イエス様は、社会から見捨てられ、虐げられてきた人と共に歩いていきました。病気の人、罪人や徴税人、娼婦、人々に敬遠され、蔑まれ、馬鹿にされてきた人たちの元に行き、手を差し伸べ、関わっていかれました。自分もうだめだ、神さまにも人にも見放された、そう思う人たちのところに行き、高らかに宣言されたのです。神さまはあなたたちのことを愛している。

しかしそのイエス様は、十字架につけられます。彼の十字架での死は、神さまのみ心でした。イエス様は十字架に付けられるためにこの世に遣わされました。すべては神さまのご計画の中にあつたのです。

神さまの子どもであるイエス様は、わたしたちの元に遣わされました。普通だったら、何不自由なく過ごせたはずですが。しかしイエス様は、わたしたちと同じ人間として来られました。人間、それは弱いものです。ちょっとした誘惑で心が揺れ動き、神さまの前に正しくなれず、罪を背負って生きていきます。イエス様はそのようなわたしたち人間と、同じところに立たれたのです。わたしたちの苦しみや悲しみ、涙、怒り、すべてを受け止め、理解し、背負ってください。それがイエス様なのです。

イエス様が歩いた十字架への道は、本当だったらわたしたちが歩かなければならないものです。わたしたちは何度でも、神さまを悲しませています。わたしたちの心の中には、たくさんの悪い思いが渦巻いています。神さまに対しても、隣にいる人に対しても、優しくなれない。傷つけてしまっています。



もしも今、神さまが目の前にあらわれたとしたらどうでしょうか。胸をはって、「わたしは何も悪いことをすることなく生きて

てきました。あなたの前に正しい者です」と言えるでしょうか。残念ながらわたしたちは、神さまの前では誰一人、潔白ではありません。それどころが、ドロドロです。しかし今日の福音書は、そのようなわたしたちに対しての福音、良き知らせなのです。

イエス様が十字架へ向かった理由、それは神さまが、わたしたちにそのような道を歩ませることを望まなかったからです。神さまは、わたしたち一人一人を大切にしてください。だからわたしたちが十字架へと向かって欲しくなかった。十字架に付けられ、滅びへと進んで行くことが耐えられなかったのです。

わたしたちが生ける者となるために、神さまの前に立てる者となるために、イエス様はすべての罪を背負って、本当だったらわたしたちがつけられるはずの十字架に付けられたのです。

十字架は、イエス様のその死によって、死の象徴から、わたしたちのいのちのシンボルとなりました。わたしたちは十字架を見るたびに、イエス様が「あなたたちは生きよ」と強く望まれたことを思い起こすのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>